



評価グリッド法を用いた潜在的欲求の抽出と商品推奨への応用

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 室蘭工業大学SVBL 公開日: 2010-07-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 瓦, 恭兵, 澤井, 政宏, 長島, 知正 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/513

次に、(2)を示すため、推奨したアイテムの満足度を評価する。満足度は、推奨アイテムが「観たい」「普通（薦められれば観ても良い）」「観たくない」のどこに属するかを質問することで行う。また、予め評価した10サンプルにこのサンプルを入れたら上位何位かを尋ねる。

3. 実験結果

本実験は、被験者18人に対して行われ、得られた評価構造図は53、実際に行われたメイン推奨の回数は108回、個人差を考慮した推奨の回数はそのうち38回となった。

推奨アイテムの評価では、平均評価値が4.55（どちらともいえない～どちらかと言えば満了）と言う結果となった。

また、満足度の評価では、図2に示すように、108のアイテム中46%が「観たい」、36%が「普通（薦められれば観てもいい）」となり、合計82%において妥当な推奨が出来ていることが分かった。

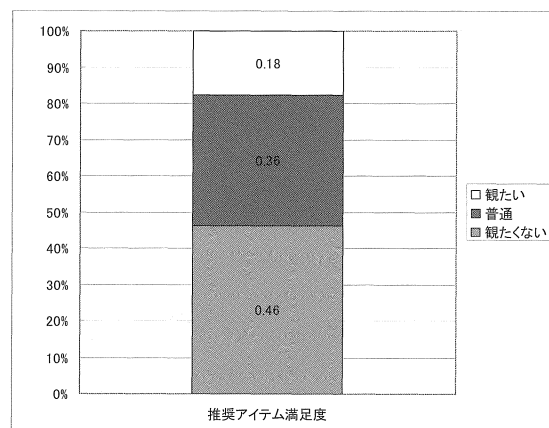


図2：推奨アイテムの満足度

4. 分析と考察

推奨アイテムの評価では、半数以上が潜在的欲求に基づいた推奨が行えていることから、(1)「推奨したアイテムが、ユーザの求める潜在的欲求を満たしていること」が示された。

また、満足度の評価では82%のアイテムに対して妥当な推奨ができたと言うことができ、(2)「満たしている場合、その推奨アイテムがユーザに好まれていること」が示された。以上の二点が結果により示されたため、潜在的欲求を満たすとして推奨したアイテムで被験者が満足したと言うことができ、いくつかの問題点があるにせよ、仮説の妥当性が示唆される結果となった。

問題点の1つとして、推奨アイテムの評価値4.55は、およそ54%のアイテムに対して潜在的欲求を満たした推奨が出来ているが、残りの46%は潜在的欲求を満たした推奨が出来なかったという点である。原因として、被験者Aが「迫力がある」という欲求から「ワクワクする」と感じた場合でも、被験者Bが「迫力がある」という欲求から「ワクワクする」とはかぎらない、といったケー

スが考えられる。この考察を裏付けるため、「迫力がある」といった潜在的欲求を導く具体的な欲求まで一致した場合のみの推奨結果を見てみると、妥当な推奨の精度が95%まで向上し、考察が正しいことが示されている。

また、本実験では複数のアイテムわたって出現した潜在的欲求を取り扱ったが、被験者にとって満たしたい欲求を完全に分析出来ているとは限らない問題がある。例えば観たい順位1位のアイテムでは「ドキドキする」という潜在的欲求があり、2位と3位のアイテムには「ワクワクする」が出現した時、本当に満たしたい欲求は、「ワクワクする」ではなく、「ドキドキする」の可能性がある。これは、本実験で潜在的欲求をすべて同じ重みであるとして扱った点に問題があると考えられる。今後、推奨システムへの応用を視野に入れる上で、潜在的欲求の重み付けという要素を無視することはできない。質問項目を加えるなど、重み付けを考慮に入れた、実験方法の再検討が必要と考えられる。

本実験で得られた評価構造図からは、個人の好みや個人差が顕著に出現する。このため個人の評価構造を分析し潜在的欲求を得る段階までは優れていると言うことが出来る。今後推奨の精度を高めるには、上記に示したような問題点を解決する必要があると考えられる。

5. おわりに

本研究では「ある商品がユーザの潜在的な欲求を満たし、好まれる時、同様の欲求を満たす他の商品でもユーザは満足する」という仮説を立て、これの検証を行った。実験結果から、いくつかの問題点はあるものの、大筋では本仮説が正しいことが明らかになった。

本実験では推奨精度が高い値を示したが、面接実験に時間がかかるなど、商品推奨システムに応用するには多くの問題を抱えている。それらの問題点を解消し、本実験で重視した潜在的欲求が、消費者の欲求を理解したシステムを生み出す1つの要素として用いられることを期待している。

参考文献

- [1] 讃井 乾：レパートリーグリッド発展手法による住環境評価構造の抽出-認知心理学に基づく住環境評価に関する研究(1)-, 日本建築学会論文報告集 No367, 1986.
- [2] 讃井 純一郎：評価グリッド法による「魅力品質」「当たり前品質」抽出の試み, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp61-64, 2007
- [3] 大澤 光：「印象の工学」とはなにか, 丸善ブラネット, pp. 238-245, 2000.
- [4] 高橋 浩伸, 大井 尚行：評価グリッド法におけるラダーリング改良手法の提案, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 57-60, 2007.